

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392200055		
法人名	有限会社 創和		
事業所名	グループホーム桃の里 (各ユニット共通)		
所在地	岡山県赤磐市下仁保100		
自己評価作成日	令和 4 年 6 月 5 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3392200055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3392200055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 4 年 6 月 18 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様の各々のご希望に沿いながら、認知症の悪化を少しでも遅らせることが出来るような介護を目指しています。現在、コロナウィルス感染対策の為に地域の方々との交流が実施できていませんが、積極的に交流の場を設けています。ご入居者様の中には、当事業所を終の場所として看取り介護を望んでおられる方も居られますので、主治医、薬剤師と連携しながら対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員で全利用者を把握し、利用者の生活ペースに沿った支援に取り組んでおり、面会時の対応など、ストレスなくスムーズに対応できる体制が整っている。また、看取り研修や接遇研修など、研修制度が充実しており、同法人のグループ企業と連携しながらレベルアップを図っている。そして、写真付きで発行している「家族通信(毎月)」や「優しい風(季節毎)」は、コロナ禍で面会がままならない中、事業所内での活動の様子や利用者の状態・状況がよく分かり、家族に安心感・信頼感をもたらしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々と交流を深め、サービスを提供する点では理念を共有できているが、職員については不十分に感じている。	各階の廊下に理念を掲示し、周知すると共に、接遇研修の中で実践しながら全職員で共有している。新人職員は新人研修を通じて、理解・共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	職員には地域に住む者も多く、介護の現場以外にも交流を深めている。	利用者と一緒に参加していた地域行事(夏・秋祭り等)や、傾聴ボランティア・職場体験・夏ボラの受け入れはコロナの影響により中止となっているが、地域の一人として、積極的に関わりを持つよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の為、現在は実施できませんが、運営推進会議を通じて、介護保険や認知症の勉強会を実施したことがあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策以前は、運営推進会議にて少しずつ介護に関心を持っていただきながら、事業所の活動内容を報告し、疑問点等にお応えする形で実施していました。	現在はコロナ禍のため、書面会議としている。以前は民生委員や町内会長、老人会、地域包括等が参加して、2ヶ月に一回開いていた。会議では写真やスライドを上手に活用しながら、参加者に関心を持ってもらえる会議を目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから困難事例や対応方法について意見を聞くなどしています。	管理者が窓口となり、介護保険法の解釈やコロナの情報交換など、積極的に協力関係を築いている。また、役員がしっかりと繋いでくれているので、良好な関係・連携が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修や会議を実施し、何が身体拘束なのかについて意見交換をし、必要最小限に留められるように努力しています。	年2回の研修及び、2ヶ月に一回の身体拘束・虐待委員会を通じて、全職員の共有認識を図っている。また、研修後にレポートを提出してもらい、浸透度を図りながら、正しい知識と理解を得ている。	管理者だけでなく、持ち回りで研修が行われることに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に研修や会議を実施し、虐待が起こらない心理状態を維持できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している入居者様もおられ、また必要と思われるケースについては関係機関と連携しアドバイスをいただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定などその都度書面で説明し、ご理解ご同意をいただいた上で実施しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等があれば、運営推進会議を通じてその内容と対応状況を報告しています。	利用者は日常生活の中で、家族は面会時に意見等を聞き取っている。聞き取った意見等は、席替えや面会方法、書類や郵便物の管理方法などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・幹部会議において意見交換を実施しています。	年2回、人事考課の面談を行っている。また、適宜、声かけしたり、相談に乗ったりして、対応している。聞き取った意見や提案は、有休取得や物品購入(炊飯器や夜勤用ベッド等)などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が継続して勤務が続けられるように聞き取りを実施するようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や年2回、人事考課を実施し、技術の向上を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あひるの会という交流会がありましたが、コロナ感染対策の為、今は実施できておらず、電話連絡や訪問をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	援助計画を作成する上で本人の希望やご家族の意向が反映できるように聞き取りを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に自宅でどのように関わってこれていたのかなど聞き取るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは入居待ちの場合が多く、他のサービスの紹介することがあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	研修などを通じて入居者様と職員のコミュニケーションの取り方や、関係性について理解を深めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策の為、面会等が十分にできない状況ですが、月1度のお手紙で近況をご報告したり、テレビ面会なども活用しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策の為、面会等が十分にできない状況ですが、可能な範囲で関係が維持できるように配慮しています。	窓越し面談やズーム(オンラインコミュニケーションツール)を活用して、馴染みの関係を維持している。また、お孫さんと手紙交換している利用者や、近所の友人と電話で話をする利用者があり、個々の生活習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々のニーズにもよりますが、席の配置などを考慮して対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話・メールなどの使い、ご要望があれば対応するようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が望んでいることに主眼を置いて援助計画が作成されるように努めています。	利用者が日常生活の中で発した言葉を重視すると共に、全職員で把握している。把握が難しい場合は、家族に聞いたり、利用者の言動や表情で把握し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームに入居されるまでにどのような暮らしをしていたのかを把握することは生活の安定につながるので最も重視している点です。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にモニタリング・評価を実施し、援助計画が現状にマッチしているかについて検討しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状では特に看取り介護において入居者様・ご家族・医師・薬剤師・職員の間で意見を交換してより良いサービスが提供できるように努めています。	ミーティング時、ケアカンファレンス及び情報交換を行っており、結果を踏まえて評価に繋げ、モニタリングで確認している。基本、モニタリングの頻度は年1回であるが、利用者の状態・状況に合わせてその都度、対応している。医師や薬剤師から薬等のアドバイスもあり、ケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項や成功例・失敗例共に個別記録に記載することで情報を共有し、モニタリングに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームに入居されて以降もニーズが合致しているかを検証し、必要なサービスにつなげるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアやキリスト教教会の方に来所して頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診を行い、かかりつけ医と連携しながら必要な場合は他科の受診も行っています。	協力医がかかりつけ医であり、24時間365日体制で適切な医療を提供している。協力医による訪問(2週間に1回)以外で他科を受診する場合は、家族と相談しながら対応している。また、日中、事業所内には看護師が常駐しており、緊急時の対応もスムーズである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人記録に必要事項を記載し、看護職員と連携を密に行い、必要であれば受診等の対応をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期に訪問、電話連絡実施し、状況把握を行いスムーズに入退院できるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では特に看取り介護において入居者様・ご家族・医師・薬剤師・職員の間で意見を交換してより良いサービスが提供できるように努めています。	看取りが必要となった時は家族等と話し合い、事業所の方針を詳しく説明している。年間研修計画の中に看取り研修を盛り込み、全職員で方針等を共有している。看取った後は必ずカンファレンスを行い、今後の看取り支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、より多くの職員が冷静に対応できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	赤磐市消防本部と連携しながら災害対策の計画を策定中です。	年2回、火災時の避難訓練を実施しており、利用者も参加している。また、地域の人に避難の様子を見てもらったり、参加してもらい、事業所の存在意義を示している。非常食やカセットコンロなど、災害時に必要な物は用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は年長者なので尊敬の気持ちを持ち接するように意識しています。	年1回外部講師を呼んで、グループ全体で接遇研修を行っている。日頃から利用者に寄り添った言葉かけを心がけると共に、ドアの開閉など、利用者の羞恥心に配慮した対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけご本人の希望が尊重できるような声かけを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに配慮しながら可能な範囲で対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装で過ごしていただけるように心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態の工夫や自助具を取り入れる、また、行事食などを節目の日には提供しています。	畑で採れたイチゴやサツマイモをおやつにしたり、収穫を手伝ってもらいながら、食事が楽しみや喜びになるよう工夫している。また、利用者の残存能力に合わせて下膳やテーブル拭きなどを手伝って貰っている。コロナ禍の為、今は自粛しているが、職員は利用者と同じテーブルで同じメニューを食し、楽しく会話しながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録、食事形態の工夫など少しでも多く摂取できるように工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、歯科衛生士の資格を持つ職員にアドバイスをもらうなどして対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレ誘導を実施、排泄の自立を促しています。また、尿意・便意がある方についても同様に対応しています。	排泄チェック表で、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を促している。また、利用者の状態・状況に合わせて夜間のみオシメやポータブルを使用する人もいるが、トイレ誘導を習慣にすることで、パットが減ったり、自立した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力、緩下剤等を使用しなくても排泄できるよう支援しています。それとともに排泄の失敗が起きないような適切な量とタイミングについても随時検討しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回以上、午前中に入浴を実施していますが、場合により入居者様の希望に沿って時間を変更する場合があります。	毎日の入浴や夜間浴など、希望者がいれば対応可能となっている。入浴を楽しんでもらうために、季節湯(ゆず湯)や入浴順序、温度などに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の記録の中から職員間で話し合い、穏やかに過ごしていただけるような環境を整備しています。場合により認知症外来等を受診して頂くこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による服薬管理を利用して頂くことにより、かかりつけ医との連携が強化され、より適切な服薬ができるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ感染対策の為、外出することは難しいですが、レクリエーションなどを工夫して対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の為、外出することは難しいですが、レクリエーションなどを工夫して対応しています。入居者様から希望を聞くことは普段から実施しています。	コロナ禍前は、職員と一緒にコーヒーを飲みに出かけたり、買い物に出かけたり、家族と一緒に外泊・外出したりしていたが、現在は、事業所周辺の桃の花を観に行ったり、畑で野菜や果物を育てたりして、身近に気分転換や活力が見いだせるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額であれば持っていただくことはありますが、基本的には事務所で預かりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・メール、手紙などの使い、ご要望があれば対応するようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも穏やかに過ごしていただけるように、工夫をしています。	共有空間は綺麗に整理整頓され、利用者が動きやすいよう配慮されている。また、季節の折り紙作品を掲示したり、職員が持参した花(紫陽花等)を行けたりして、季節感を取り入れている。	押しピン以外の掲示方法の工夫に期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の場所を工夫するなど快適な環境になるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やレクリエーションの作品を掲示するなど明るい雰囲気になるように心がけています。	馴染みの家族写真やタンスなどを持ち込んだり、レクリエーションで作成した手作りカレンダー等を掲示するなど、個々に居心地よく生活できるよう配慮している。ベッドは利用者の状態・状況に合わせて配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り、安全が確保できる場合には、残存機能を活かして生活できるように支援しています。		